

平成30年度 大阪府立芦間高等学校 第1回 学校運営協議会

日時 平成30年7月18日(水) 午前9時35分～午後0時
場所 本校1階 校長室

構成員 <協議会委員>
笹山 幸子 元府立高等学校長
竹本 剛 P T A会長
藤田 俊和 後援会会長
松本 紀容子 守口市立八雲中学校 校長
宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員
山崎 裕也 スクール I E (学習塾) エリアマネージャー

<事務局>
東崎 浩 教頭
久森 雅代 事務長
辻 真人 首席 兼 総務文化部長
塩崎 靖子 首席 兼 教務主任
斉藤 衛 生徒指導主事
諸木 忠治 進路指導主事
丸山 清美 保健主事
甲斐 徹 情報部長
小原 浩昭 第1学年主任
角山 愉紀雄 第2学年主任
平尾 映子 第3学年主任
水嶋 育美 支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長
萩原 英治 校長

配付資料 ○職員研修資料
○授業見学所見
○「勉強」に関するアンケート
○平成30年度学校経営計画
○遅刻集計
○芦間っ子

内 容

- (1) 授業見学
- (2) 校長挨拶、趣旨説明
- (3) 会長選出および会長挨拶
全会一致で竹本 剛 氏を会長に選出
- (4) 報告
校長より
 - ・平成30年度学校経営計画について
 - ・見学授業について
 - ・地震の被害について
 - ・カリキュラムマネジメントについて
 - ・イングリッシュキャンプについて
 - ・部活動の状況について
 - ・進路実績について教頭より
 - ・今年度実施教員研修について
- (5) 協議 [1] 授業改善に向けての取組みについて (授業見学感想等)
[2] 平成30年度学校経営計画について

[1] 授業改善に向けての取組みについて

- (委 員) 「本時の目標」が板書されていなかったのは残念。また、今回は ICT の活用が見られなかった。大学生でもパワーポイントが当たり前になってきている。主体的な学びという点では生徒の思考を促してはいなかった。
- (委 員) 生徒は全員話を聞いていた。形の上では主体的な学びに向かっていた。机の上も学びに向かっている。身だしなみも良かった。
- (委 員) 小論文は楽しそうにしていた。化学は正当率によって進路の見込みを示すことは良いことだ。
- (委 員) 先生は自信を持って授業をしていた。一方的にしゃべるのではなく子どもの様子を見ながら授業をする方が良い。
- (委 員) 小中学校に比べて静かな授業だった。大人になっている。先生が答えるのではなく生徒が自ら答えを見つける授業がよい。

[2] 平成30年度学校経営計画について

- (委 員) 子どもが熱中症になった。ハード面と授業内容に工夫が必要。
- (事務局) 体育教官室のエアコンが故障した。先生の体調や生徒の熱中症対策として必要なものである。現在のは後援会によってつけていただいたものだったので今回も後援会の援助で更新できることになった。
- (委 員) 顧問の先生が気を配る必要がある。
- (事務局) 合宿もあるので熱中症対策を徹底させる。

- (委 員) アンケートの生徒の満足度について、なぜ満足できていないかの分析をし、授業改善に結び付けていくべき。生徒がちょうどよくてもその生徒にとって適当かどうかかわからない。学力が高くなる授業は思考を促す授業、生徒が自分で調べる授業である。校内のソーシャルキャピタルが高いところは学力が高い。学級、学校集団の意欲を持つことが成果につながり、いじめの減少にもつながる。教員のメンタルヘルスについても教員集団の職場のソーシャルキャピタルを高めることが必要で、それが教員のパフォーマンスにつながる。
- (委 員) 遅刻の件については2年生が多くなっている。この学年は進学とアルバイトの関係が言われてきた。それとの関係はあるのか。
- (事務局) 無いとは言えない。
- (委 員) アルバイトが生活の乱れにつながっては良くない。
- (事務局) 貧困とまではいかないが、本校では経済的に苦しい家庭が比較的多い。
- (委 員) 奨学金はありがたいが支給のされ方が良くない。結局入学金と前期分の授業料は自分で用意しなければいけない。

○学校経営計画、平成31年度使用教科書について承認をいただいた。

(6) 校長挨拶

○第2回はオープンスクールを見ていただきたいので11月17日(土)午後を考えている。